



TITLE:

油脂の新恒数ロダン價及其應用(第2報): 不飽和脂肪酸に對する遊離ロダンの撰擇的作用

AUTHOR(S):

木村, 和三郎

CITATION:

木村, 和三郎. 油脂の新恒数ロダン價及其應用(第2報): 不飽和脂肪酸に對する遊離ロダンの撰擇的作用. 化學研究所學術報告 1929, 1

ISSUE DATE:

1929-11-30

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/74490>

RIGHT:

小なりこれ油酸類不飽和脂肪酸を不飽和脂肪酸の主成分とするためなるべし沃素價とロダン價との差は鰯油に於て最大なり (76.53)

植物油中荳油最大のロダン價 (124.87) を有し椰子油最小 (6.79—6.97) にして沃素價とロダン價との差は桐油最大 (91.10) にして椰子油に於て 0 に近付くリノレン酸 ($C_n H_{2n-6} O$) を含有する荳油及亞麻仁油のロダン價がリノール酸グリセリドのロダン價 86.65 を超過せるはリノレン酸の 2 重結合の 1 個以上にロダンが添加するためなるべし

油脂の新恒數ロダン價及其應用 (第 2 報)

不飽和脂肪酸に對する遊離ロダンの撰擇的作用

木 村 和 三 郎

(工業化學雜誌 1929, 32, 458)

種々の不飽和結合に對する 遊離ロダンの撰擇的添加は既にゼーデルベック氏 (E. Söderbeck, Ann., 1925, 445, 142) 及カウフマン氏 (H. Kaufmann, Arch. Pharm. u. Ber. Deutsch. Pharm. Gesell., 1925, 35, 675) 等觀察せり著者は第 1 報に記載せる遊離ロダン溶液の油酸、エライジン酸、リノール酸及リノレン酸に對する作用を研究せりロダン價及沃素價 (ウイズ氏法) 測定結果は次の如し

		沃 素 價		ロ ダ ン 價	
		計 算	實 測	計 算	實 測
オレイン酸メチルエステル	$C_{18}H_{33}O_2CH_3$ (F ₁)	85.67	86.86	85.67	83.56
エライジン酸	$C_{18}H_{34}O_2$ (F ₁)	89.83	89.56	89.83	89.53
リノール酸メチルエステル	$C_{18}H_{31}O_2CH_3$ (F ₂)	172.52	180.45	86.26	89.94
リノレン酸メチルエステル	$C_{18}H_{29}O_2CH_3$ (F ₃)	260.56	258.56	{ + (SCN) ₂ : 86.85 + 2(SCN) ₂ : 173.71	152

此結果より次の結論を得べし

1. 此測定に於て油酸、エライデン酸及リノール酸に遊離ロダンは1モル添加す。
2. リノレニン酸に對する遊離ロダンの添加量は1モルと2モルの間に在り此事實は六臭化ステアリン酸の脱臭素に際しロダン溶液に對する作用を異にする異性體の生成を想像せしむ

エルシン酸分離の一新方法

木村 和 三 郎

(Seif. Ztg., 1929, 56, 182)

菜種油よりエルシン酸を分離するにトイフェル氏等 (K. Täufel u. C. Bauschinger, Z. ang. Chem., 1928, 41, 157) は鉛鹽アルコール法分別沈澱により固體飽和脂肪酸を除去せる菜種油混合不飽和脂肪酸アルコール溶液を中和稀釋しエルシン酸をマグネシウム鹽として沈澱せしめたり

著者は鉛鹽酒精法により固體飽和脂肪酸を除去せる不飽和脂肪酸アルコール溶液を5% 苛性加里にて部分的に中和しエルシン酸を酸性加里鹽 ($C_{22}H_{42}O_2 + C_{22}H_{41}O_2K$) として分離せり此方法による時はマグネシウム鹽稀薄アルコール法に比し操作は簡單にて多量のアルコールを要せず且此を稀薄する不便を省略し得此方法による時は最初より從來の方法によるよりも純度高きエルシン酸を得

砒素の有機化合物に就いて (第一報)

グリニヤール試薬と三鹽化砒素の反應

松 宮 馨

[Mem. Coll. Sci. Imp. Univ. Kyoto, 1920, IV .217]

グリニヤール試薬に對する金屬及びメタロイドのハロゲン化合物の作用により